
特集 1 生活習慣と中高年期における疾病の予防

【巻頭言】

有澤孝吉 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部社会環境衛生学講座予防医学分野)

日浅芳一 (徳島県医師会生涯教育委員会)

日本は平均寿命が男性79歳、女性86歳と世界でも最も平均寿命の長い国の一つである。しかし、一方では890～2210万人といわれる糖尿病患者の存在や、高齢化に伴う循環器疾患患者の絶対数の増加、約7年ともいわれる要介護期間の存在など、改善すべき点が多く指摘されており、これらは生活習慣が深くかかわっていることが知られている。

そこで、今回は、中高年期に頻度の高い循環器疾患、骨粗鬆症、歯周病、および廃用症候群の4つの疾患を取

り上げ、研究ならびに日常診療の第一線で活躍されている4人の先生方に生活習慣との関連やその予防方法について概説していただいた。これらの疾患は一見ばらばらのように見えるが、その成因や危険因子には重なる部分があり、一つの疾患の予防が他の疾患の予防にもつながると考えられる。

本特集がこれらの疾患の予防、および中高年における健康管理の向上に役立つことを期待する。